

～山田賞～



平岡 佐規子

略 歴

昭和44年8月6日生
平成6年3月 岡山大学医学部卒業
平成6年4月 岡山大学医学部附属病院 第一内科勤務（研修医）
平成6年10月 香川県立中央病院 内科研修医
平成8年10月 国立療養所津山病院内科勤務
平成9年12月 津山慈風会津山中央病院内科勤務
平成12年2月 岡山大学医学部附属病院第一内科 医員
平成21年11月 岡山大学病院消化器内科 助教
現在に至る

研究論文内容要旨

大腸癌は分子生物学的に大きく分けて2つの発生経路がある（マイクロサテライト安定型：MSSとマイクロサテライト不安定型：MSI）。いわゆる通常の大腸ポリープは病理学的に腺腫といわれるもので、MSS型発癌における前癌病変である。一方、全大腸癌の約15%を占めるMSI型発癌の前癌病変は長らく不明であった。近年、これまで良性と考えられていた鋸歯状ポリープ（病理学的に鋸歯状の腺管構造を呈するポリープ）の一部が、MSI型大腸癌と類似の分子生物学的異常を持つことがわかり、MSI型発癌の前癌病変として認識されるようになった。しかしながら、鋸歯状病変の存在と大腸癌発生との関連を疫学的に検討された報告はほとんどなかった。

我々は、岡山大学病院とその関連病院の大規模な大腸内視鏡データベースのデータに基づいて、多変量解析の手法を用い、大腸鋸歯状病変の存在が大腸発癌、とくに右側（横行結腸より口側、MSI陽性癌の好発部位）の大腸癌と強い関連があることを初めて証明した。